

人と活動のつながりづくりを応援する

にじとも広場

2020
15号

子どもを大切に思う全ての人とvol.2



2020年2月11日に、「地域で育つ子どもを考えるPart2」を実施しました。
様々な立場で子どもに関わる活動をしている方が集い・出会い・考える場になりました。



コーディネーター＆パネリスト紹介

それぞれの現場で出会い、見つめてきた、沢山の子どもたちやお母さん・お父さん。
そして地域について、現場にいるからこそわかるここと、感じることをお話しいただきました。



上岡美津子さん（小学校元校長）



左：武田容子さん（西区民生委員児童委員協議会会長）
中央：山田美智子さん（西区地域子育て支援拠点スマイル・ポート施設長）
右：菊地聰太さん（公益財団法人よこはまユース さくらリビング運営）

地域の中で 見えにくくなる「子どもたち」 日々の関わりで感じてきたこと。

産前から未就学の 子どもたち



山田さん

横浜市では、5年毎に大きなニーズ調査が行われます。最近の調査では、未就学のお子さんをもつ母親の58.4%が就労していることがわかりました。出産後も就労を継続する人が増えています。また、最近は障がいのあるお子さんに対する制度やサービスが充実し、早期に療育などにつなぐことができるようになってきました。専門的な支援を選択できる反面、送迎付きサービスなどの利用で、地域との距離が離れてしまうこともあります。

そして、出産前に赤ちゃんの世話をしたことがなく、我が子が初めての子育てという母親は75%もいます。他県からの転入や、マンションの中で一人の子育てなど、不安な状態で子育てをしている姿が見えてきます。スマイル・ポートでは産前からの親御さん支援が必要だと感じています。

未就学の子どもたち から小学生



武田さん

高層マンションが増え、出生率が上がってきた頃、集える場が欲しいけれど、自分たちでは作れないというお母さんの声に、じゃあ、私達が作りましょうと「親子ふれあい会」を立ち上げました。その後、社会福祉協議会の援助や参加するお母さんたちの協力もあり、小さな子たちの「子育てサロン グーチョキバー」を作りました。第五地区には、公園が岡野公園1つしかありません。子どもたちは遠くの公園へ遊びに行くしかない。「誰かの家にいるのかな」「道端で遊んでいるのかな」「思いっきり体を動かせないかな」そんな思いで、「ふりーサロン5」を始めて5年が経ちます。小学校に上がるまではよいけれど、小学校、中学校に進むと地域の支援がすっぽりなく

なると感じています。昔は不良と言えば目に見えていたけれど、今は影に隠れて、スマホを使ってはじめをする。本当にいい子が陰の番長、なんて世の中。その部分も地域でみていかなければと思っています。

小学生から青少年



菊地さん

さくらリビングは、桜木町にある青少年向け施設です。年齢による時間制限はありますが、名前を受付で記入するだけで9時から22時まで利用でき、グループでも一人でも過ごすことができます。小学生～大学生、若者も利用し、年間約7万人の利用があります。利用するのは学校帰りの中高生が多いですが、中には学校に行っていないと思われる子、学校を辞めた子など、多様な子どもたちが来ます。職員はなるべく子どもたち自身が問題の解決ができるよう、見守りながらサポートをしています。

参加者とのディスカッション

子どもたちは、季節の行事やお祭りへの関心が高いと感じています。



地域のイベントに参加するのは、小学生、中学生くらいまでが多いですよね。高校生も、花火やお祭りには参加しているようです。

働いているので大きなことはできませんが、お祭りの世話人など少しでも地域と関わるような活動は続けていきたいです。



親自身、お祭りの経験・体験が少ないかも。お祭りの楽しさを、親も子も知らないことがあるかもしれません。

お祭りの場づくりをどうしていくか、親も出て来れるような土台作りが必要ですね。



本当に困っている人は、施設にも電話相談にもどこにもつながらないのでは。情報が届いても、相談できない人もいるのではないかでしょうか。



その視点を持っていることが大事。「誰も置き去りにしない」という意識を持っていても、置き去りにしてしまっていることもあるのではないかと常に心に留めることも大切にしたいですね。



我が子が0歳のうちから 地域のシャワーを 浴びて欲しい

山田さん



スマイル・ポートのスタッフは、産前からの親御さんサポートを大切にして、地域と出会う機会を沢山つくるよう意識しています。スタッフが同行して、子育てサロンや地域ケアプラザとつなぐこともあります。

子育ての中で自分の経験値がないことが起きた時、親はうろたえますよね。そして、東日本大震災の際のように、親や支援者がそばにいられるとは限らない時も、日頃の付き合いがあれば、我が子を見守ってくれる目が地域にはあります。いろいろな生き方や経験で多方向から支えて、風穴を開けてくれるのは地域の人です。

どんな子も全部地域の子、 地域丸ごとひとかかえ

武田さん



「民生委員」の名前の後には「児童委員」と続きます。高齢者から幼児まで、地域丸ごとひとかかえで対応しています。ふりーサロン5にも、折り紙のボランティアや、子どもと遊んだり荷物を運ぶボランティアなど、担い手として様々な関わり方があります。急に参加するのは難しいかもしれません、若い頃から関わることで、自分にできることを探しながら地域とのつながりを作っていくのを思います。本日のような場で、どんな人ともつながる新たな方向を模索していきたいです。

学校でも家庭でもない もう一つの居場所

菊地さん



さくらリビングは相談の場所、居場所、社会参加につながる場所です。就労やボランティア体験、裁判所などの社会体験や、成人を過ぎた子にはお酒の楽しみ方の講座も開催しています。

半年間、閉館時間までずっとゲームをして、挨拶にも会釈だけ、質問にも「あ、はい」と答えるくらいの関わりだった高校生がいました。ある日、自分から身の上話をしてくれて、学校でのいじめや親との不仲で居場所がなかったことを知りました。

家族とも先生とも違う、ある意味何の関係もない大人でも、日頃の挨拶を通じて信頼関係ができ、いざというときのつながりになると感じた瞬間でした。

西区は、良い意味で おせっかいが多い場所。

上岡さん

子どもの成長にとって、小学生までは親との関わり、中学生以降は友だちや部活での関わりが大切になると考えています。親には悪態をついて、親の言葉には素直に従えなくても、地域の人には礼儀正しいこともありますよね。それは、親はきっと許してくれると言えているからなんです。

人は一人では生きられないし、必ず誰かを欲しています。親だけで抱えず、地域の中で育ててもらえばいい。地域にはいろんな人がいる、それがチャンスだと思っています。スクラムを組んで、ピンチをチャンスに変えていきましょう。

ま と め

(にしても広場スタッフ)

講座が終わっても、あちらこちらで話が続き尽ませんでした。地域の中に子どもを大切に思う人たちがこんなにもいることを知り、それぞれの想いを語り、確かめ合う場となりました。これからも新たなつながりや“おせっかい”が広がっていくと嬉しいです。

にしくで育つ子どもたちと地域



2019年7月の講座では、横浜市立大学三輪先生より「住んでいるまちを“自分のまち”と思うには、子どものころから、まちと関わる仕掛けをつくっていくことが大事。それは乳幼児期というちょっと早いかなと思える時期からでも早くはない。“地域で子どもを育てる”とは、サイクルが自分にまわってくることであり、経験を次につないでいくこと（前号参照）」を学びました。そこで今号では、子どもが成長するにつれてどんな関わりがあるのか、地域で子どもに関わる活動をしている方々や、その場に参加している方の声をお聞きしました。

東久保町会館で待っています！

サロンの場は、スタッフの見守りのなか、お母さん同士の情報交換の場になっていて、毎回10組前後の参加があります。「赤ちゃんを連れて出かける場所でどんな所がある？保育園に預けるときの働き方はどうする？」などなど。月齢が近い、少し上の子の話を聞けるのもよいようです。スタッフも、実は前身の子育てサークルでお世話になった者ばかりです。今度はわたしたちが担い手に、という思いで活動しています。

あずまっこ

場 所：東久保町会館（東久保町29-11）
開 催：原則第3月曜日
10時～12時
連絡先：090-1343-1650



あずまっこに 参加しています♪

お座りができるようになったころから、あずまっこに参加しています。習い事ではないので、何時に来なければならないという決まりがなく、気軽に参加できることが有難いです。私たちも、この場に来て知り合いました。お互い情報交換をして、ケアプラザでのサークルに入るきっかけになりました。



赤ちゃん
時期

子育ての悩み、一緒に話しましょう

子育ては一人で悩んでしまいがちです。抱え込まないで、と伝えています。藤村さんは、「スマイル・ポート」の職員であり、相談専任職として、月に一度西区役所のキッズスペースで子育てのお悩みやお話を聞いています。きょうだいのこと、家庭のこと、一時預かりのこと…悩みは本当に一人一人違います。まずはお電話でも、お話ししてみませんか。

「横浜子育てパートナー
キッズスペース出張相談」
スマイル・ポート相談専任職
藤村メイ子さん



場 所：西区役所キッズスペース
開 催：原則毎月第2金曜日13:30～15:00
連絡先：045-264-4355（西区地域子育て支援拠点スマイル・ポート）
045-306-9090（予約・相談専用ダイヤル）

育休中に地域と出会いました！

美容室で偶然手に取った「藤棚新聞」。その取材ボランティア募集の記事を見つけたのが、地域との関わりの始まりです。最初は「子連れ取材」で周りに迷惑をかけてしまわないかと引け目を感じていました。勇気を出して子連れであることを相談してみると、地域の人はとても親切で…。取材は、今まで行ったことのない場に行く機会になっています。仕事復帰後も、お休みの日など、これからも関わっていきたいです。



乳幼児期 ～ 学齢期



震災によって、子どもたちが人生をあきらめないようサポートしたい

2011年4月末、川崎市の避難所で、学習室を開設したことが始まりです。現在は、東日本大震災・熊本地震で県外から避難してきた小学生、中高生の学習支援、ピクニックなどのイベントを行っています。

9年間ずっと続けてきたのは、地震の被害で、子どもたちに人生をあきらめて欲しくないという思いがあるからです。現在登録している大学生ボランティアは30名ほど。様々な大学から参加していて、子どもたちをサポートしています。他の機関とも連携しています。気軽に相談してみてください。

あそびは自由!! やってみたいことをやってみよう!

他区のプレイパークの自主保育でつながった仲間と、「西区にはプレイパークがない、それならば自分たちで！」と立ち上げました。立ち上げて3年目になりますが、2020年度も年10回実施予定です。季節によっていろんな遊びを取り入れ、遊びのプロであるプレイリーダーと一緒にプレイパークを開いています。

プレイパークは「何をして遊んでもいいところ」。決まったプログラムではなく、名前のない遊びができる場所、遊びをつくっていく場所です。子どもも大人も「何々してあそばなきゃ！」ではなく、「何ができるかな」という気持ちで外遊びしませんか。

プレイパーク参加者の お母さん2名より

2回目の参加です。ママ友から紹介されて、子供と一緒に参加しました。月曜日に参加できる場所が少ないので嬉しいです！

近くのコミュニティハウスでチラシを見て、参加しました。なかなか外に出ないので、外遊びの機会になってありがとうございます。



よこはま学習教室（代表 鈴木）

場 所：西区福祉保健活動拠点 フクシア
(高島2丁目7-1)

開 催：毎週火曜日 18:30～20:30
毎週土曜日 15:00～17:00

連絡先：shonancafe134@gmail.com



浅間台みはらし公園外遊び運営委員会

場 所：浅間台みはらし公園（浅間台7-5）

開 催：年10回開催（詳細はブログにて）

連絡先：n_miharashi_pp@yahoo.co.jp



温かい雰囲気で 見守ります

長年保育園に勤めていましたが、膝を痛めたことがきっかけで退職しました。家に引きこもっていてはしょうがない、自分の経験を生かせるものはないか探していた時、「かもん未来塾」と出会いました。子どもたちを見守りながら、生活に必要なことを伝えています。

仕事で疲れてお迎えにきたおうちの方に、子どもの良かったことを見つけて伝えるようにしています。自分自身も健康に気を付けながら、ボランティアを続けていきたいです。

現在大学3年生です。かもん未来塾でボランティアをして1年になります。将来、中学校の教師を志望していますが、大学生の今の時期に、子どもたちと関わるボランティアをしたいと思いました。子どもたちの学習だけでなく、生活にも寄り添っているかもん未来塾を選びました。以前より宿題への集中力があがったりと、子どもの成長を感じる場面があります。関わりを通じて、子どもたちの行動の理由を考えられるようになりました。大学卒業まで、子ども一人ひとりの成長に関わっていきたいです。

大好きな西区で育ちました。 今度は、プロジェクトを作っていきたい！

大学は地理学を専攻し、人の暮らしと地域を、実際のまち歩きと統計やデータから読み解くことが面白くて仕方なかったです。社会人になった現在も、「横浜」「西区」を中心に、様々な活動に参画しています。西区地域づくり大学校の受講、地域新聞である藤棚新聞のボランティア、同世代の戸部まち歩きツアー企画、そして得意なイラストでキャラクターデザインなど幅広く活動しています。

「横浜が好き」という思いを発信することで、人のつながりが広がっていくことを実感しています。横浜18区の魅力を発信するプロジェクトを立ち上げたので、これから自分の暮らし・居場所・コミュニティをどうつくっていくか、取り組んでいきたいです。

大学生
大人になって



ボランティアの尾関さん



大学生ボランティアの君島さん

かもん未来塾

連絡先: 045-662-4170 (公財) よこはまユース



西区をモチーフにした
オリジナルキャラクター



西区地域づくり大学校の
受講をきっかけに、地域で活躍中
遠藤望さん

連絡先: fujinachan@gmail.com



にじともフォトコーナー



しゃぐうじこうえん
「社宮司公園の桜」

撮影者：黒田耕治さん
フォトラボ・ルーチェ(西区街の名人・達人登録)
西横浜駅から歩いて5分。桜の穴場スポットです!

大募集！にじともフォトコーナー

締切：2020年6月30日

送付先：ni-shiencenter@star.ocn.ne.jp

タイトルは「フォトコーナー申込み」とご記入ください。

- ① ニックネーム ② お名前 ③ 年代 ④ 連絡先メールアドレス または 電話番号
- ⑤ 撮影場所(写真のタイトル) ⑥ この場所のおすすめ理由 ⑦ 15号(本号)の感想

※①～③を紙面に掲載します。

※人物が写っている場合は、撮影・掲載許可を必ずおとりください。

※撮影機材の限定はありません。スマートフォンも可能です。データにてお送りください。

編集後記

「子ども」をテーマに考えた一年。
企画講座や取材を通し、地域の中で、見えづらくなっている子どもや家族がいる一方で、何かの形で力になりたいと考え、活動する人たちも沢山いることを知りました。

様々な立場や経験を持つ人が集まる、一人では思いつかないアイディアも生まれます。

大切だと思ったのは「知ること」・「つながること」。

にじとも広場のスタッフも地域について知り、みなさんと学び、必要なつながりと一緒に考えていきたいです。

**にじとも広場16号は、
9月発行予定です。**



お楽しみに！



記事を読んで
感想をお待ち
しています。
(スタッフ一同)

“にじとも広場”ってどんなんとこ？

にしく市民活動支援センター“にじとも広場”は、人と活動のつながりづくりを応援する場です。

「何か始めたい」「活動の場を広げたい」「活動に役立つ情報を知りたい」といったご相談をお待ちしています。



にしく市民活動支援センター
にじとも広場

管理運営：認定NPO法人市民セクターよこはま

TEL/FAX：045-620-6624

[Eメール] ni-shiencenter@star.ocn.ne.jp

[ホームページ] <http://nishitomo-city-yokohama.jp/>

[住所] 横浜市西区中央1-5-10 西区役所1階

[開館時間] 9:00～17:00

休館日：毎週水曜日・年末年始(12/29～1/3)

[アクセス] 京浜急行「戸部駅」徒歩8分

相模鉄道「平沼橋駅」徒歩10分



情報紙「にじとも広場」は、
西区内の郵便局、地区センターなど公共施設に配架しています。

発行：にしく市民活動支援センター“にじとも広場”
発行日：2020年3月

承認西区第32号